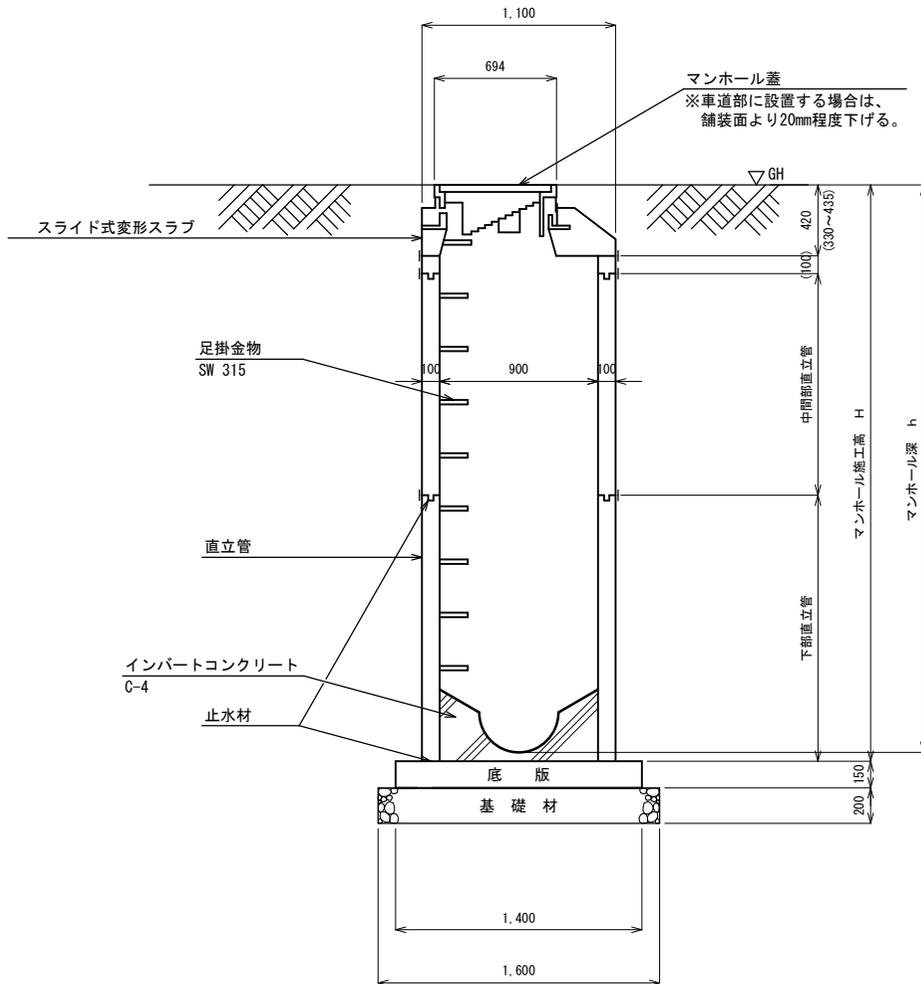


1号マンホール標準図

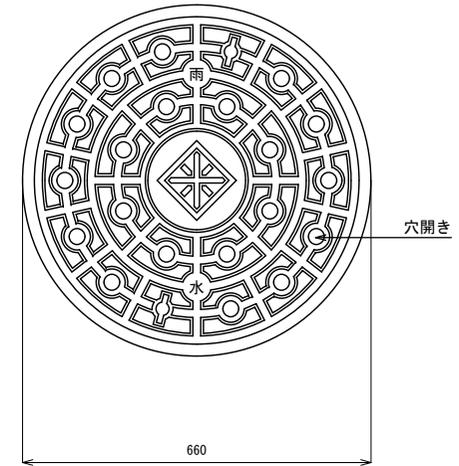
S=1:30



※足掛金物の位置は路肩（歩道）側を標準とする。
 但し、複数の流入がある場合等は、点検時に支障とならない箇所とする。
 直立管が100cmを超える場合、10cmの切り管を布設する。
 スライド固定用のボルトはスライドの段数により適宜調整し、確実にロックさせること。

マンホール蓋詳細図

S=1:10



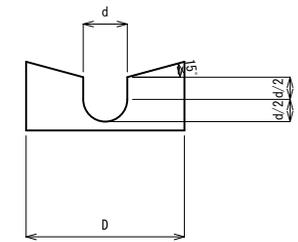
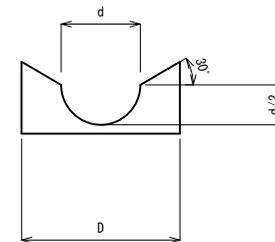
インバート詳細図

Non-Scale

※ 合流地区における排水管整備については、本標準図のとおりインバートを施工する。
 分流地区における雨水管整備についてはインバートを施工せず、泥溜め(15cm以上)とする。

φ 300以上円形管の場合

φ 250以下円形管の場合

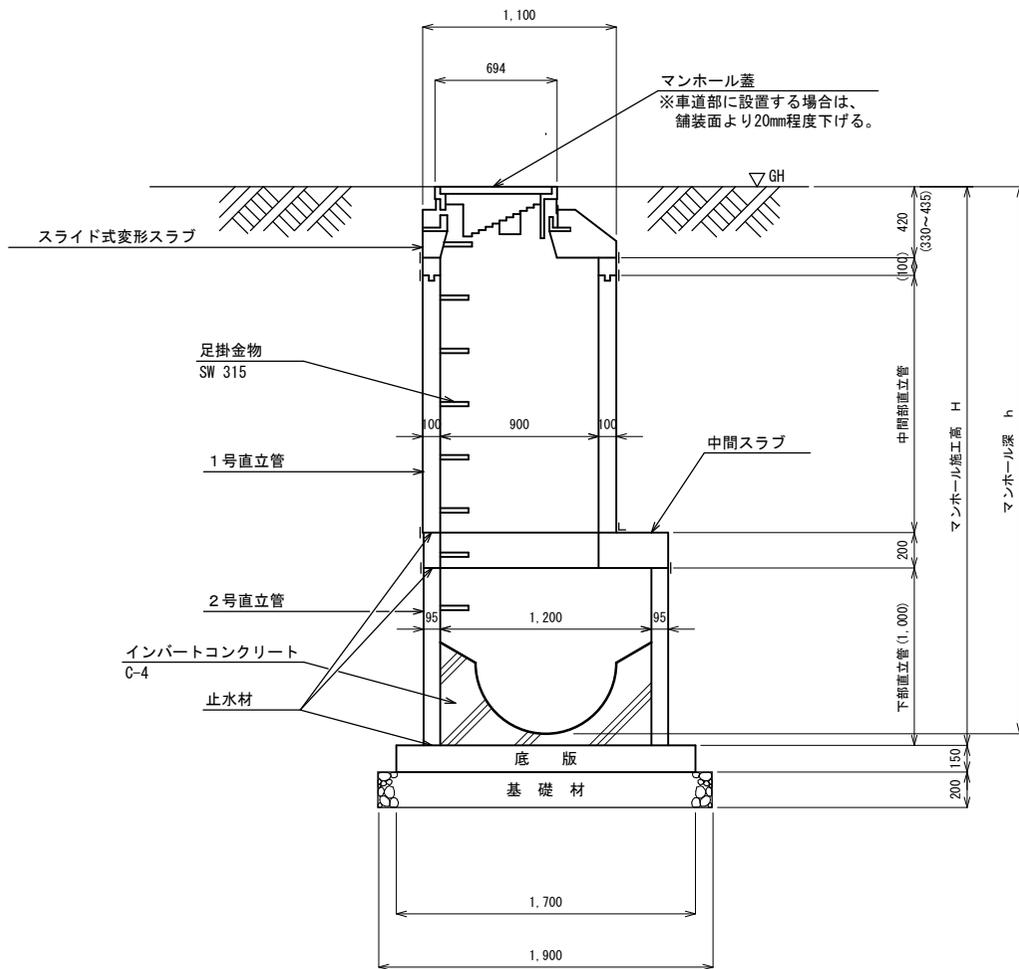


- * 段差が5cm以内であればインバートをすり付ける。
- * 段差が6cm以上であればインバートを下流勾配に合わせる。
 但し、下流が塩ビ管の場合は下流勾配の2倍とする。

年度	
路線名	
工事名	
図面名	1号雨水マンホール標準図
縮尺	図示 図面番号
設計年月日	
岩見沢市建設部土木課	

2号マンホール標準図

S=1:30



※足掛金物の位置は路肩（歩道）側を標準とする。

但し、複数の流入がある場合等は、点検時に支障とならない箇所とする。

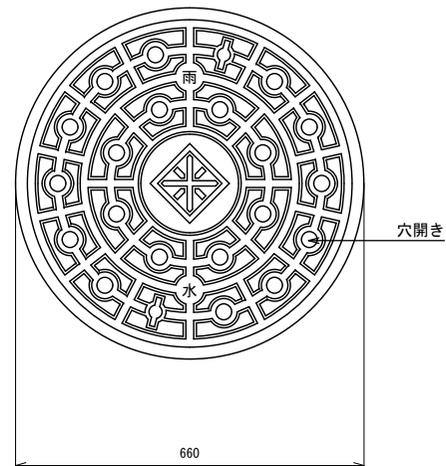
2号マンホール以上は下部直立管の上部にスラブを設置し、中間部直立管からは1号マンホールを使用する。

1号直立管が100cmを超える場合、10cmの切り管を布設する。

スライド固定用のボルトはスライドの段数により適宜調整し、確実にロックさせること。

マンホール蓋詳細図

S=1:10

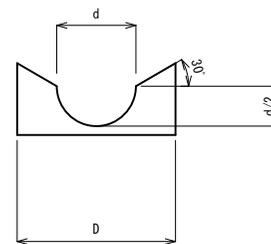


インバート詳細図

Non-Scale

※ 合流地区における排水管整備については、本標準図のとおりインバートを施工する。
分流域における雨水管整備についてはインバートを施工せず、泥溜め(15cm以上)とする。

φ300以上円形管の場合

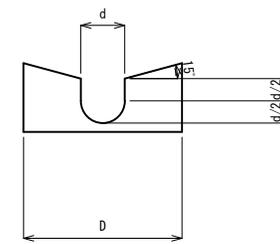


* 段差が5cm以内であればインバートをすり付ける。

* 段差が6cm以上であればインバートを下流勾配に合わせる。

但し、下流が塩ビ管の場合は下流勾配の2倍とする。

φ250以下円形管の場合



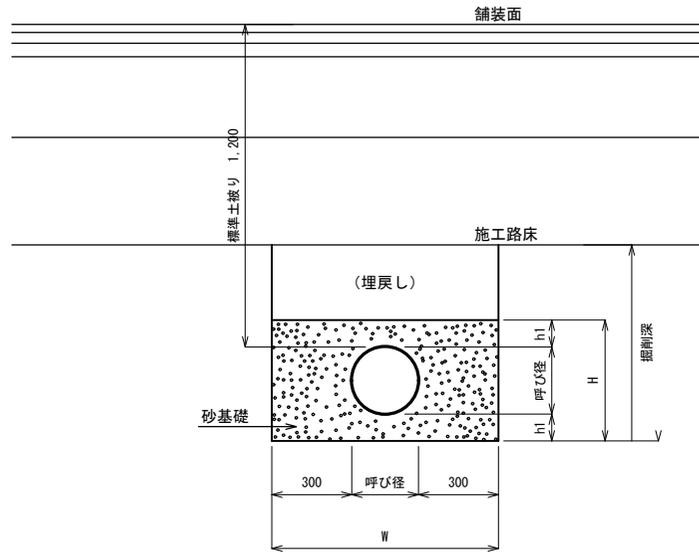
年度	
路線名	
工事名	
図面名	2号雨水マンホール標準図
縮尺	図示 図面番号
設計年月日	
岩見沢市建設部土木課	

管渠工標準図

縦断管基礎10m当り数量表

呼び径	砂	床仕上げ
φ 250	3.31m ³	8.50m ²
φ 300	3.76m ³	9.00m ²
φ 350	4.22m ³	9.50m ²
φ 400	5.70m ³	10.00m ²
φ 450	6.23m ³	10.50m ²
φ 500	6.68m ³	11.00m ²
φ 600	8.88m ³	12.00m ²

縦断管基礎標準図
車道下埋管

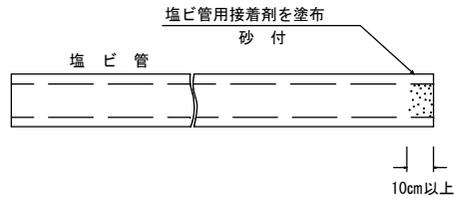


縦断管基礎寸法表

呼び径	内径	外径	h1	W	H
φ 250	250	256.1	100	850	450
φ 300	300	307.1	100	900	500
φ 350	350	357.4	100	950	550
φ 400	400	407.6	150	1000	700
φ 450	450	457.8	150	1050	750
φ 500	489	520.0	150	1100	800
φ 600	592	630.0	200	1200	1000

- 注1) 砂基礎は管上h1を標準とするが、凍上抑制層内にはいる場合でも、最低10cmは確保すること。
 注2) 掘削深が1.50mを超えるものについては、別途監督員と協議すること。
 注3) 管種については、現場・施工条件等に応じて、経済性や施工性などを勘案し、選定するものとする。
 注4) 塩ビ管・リブ付塩ビ管を使用する際の、柵・人孔との接合部分には、抜け防止のため、砂付加工を施すこととする。

砂付加工図

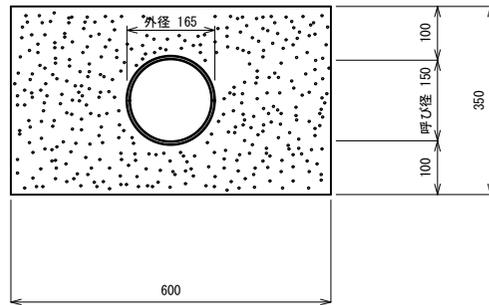


※砂付加工は、まず管端をよく清掃し、所定の長さに塩ビ管用接着剤を塗布後すぐに乾燥した砂を管上から塗布し、均一に砂を接着させること。

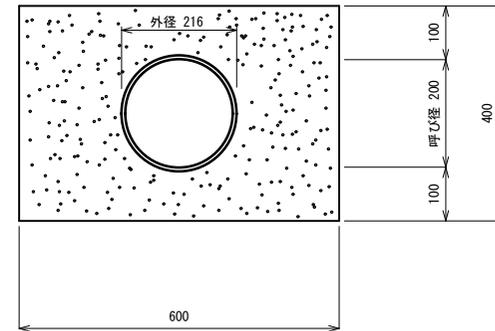
年度	
路線名	
工事名	
図面名	管渠工標準図
縮尺	図示 図面番号
設計年月日	
岩見沢市建設部土木課	

取付管標準図

VUφ150
標準



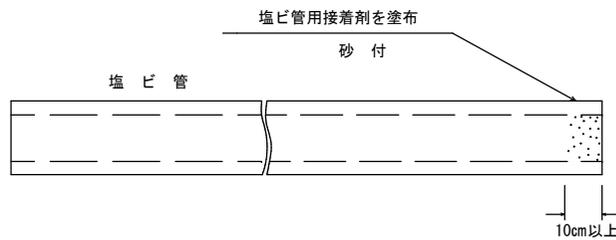
VUφ200
他流入がある場合



砂	床仕上げ	摘 要
1.89m ³	6.00m ²	VUφ150
2.03m ³	6.00m ²	VUφ200

注) 取付管は硬質塩化ビニル管とし、継手形式はゴム輪受け口とする。
 縦断管に接続する場合は、支管接合を原則とする。
 樹・人孔との接続部分には、抜け防止のため、砂付加工を施すこととする。

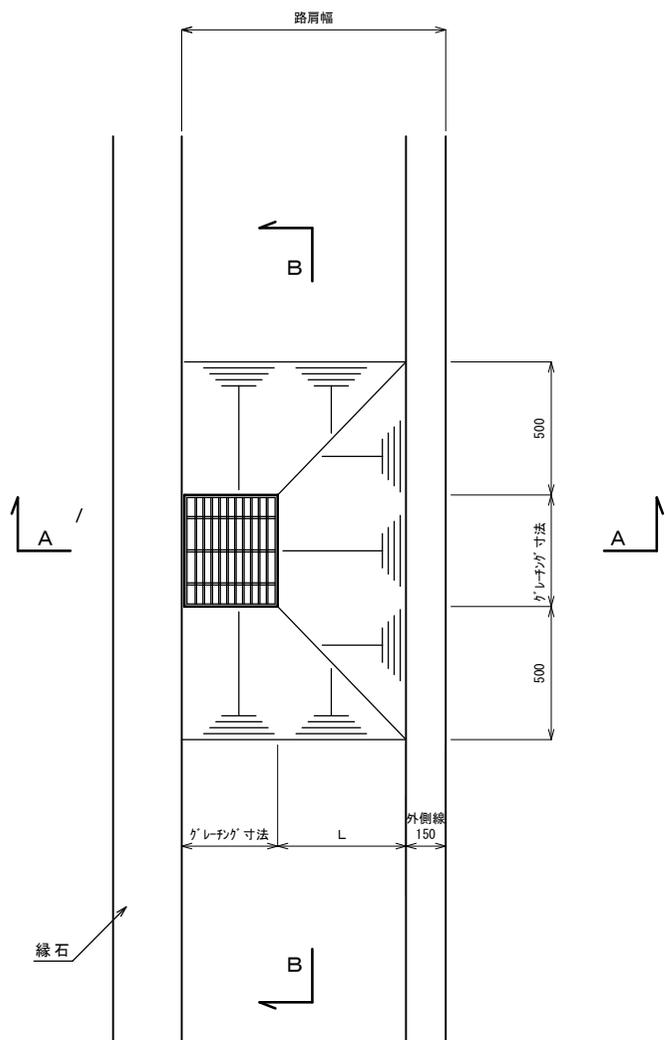
砂付加工図



※砂付加工は、まず管端をよく清掃し、所定の長さに塩ビ管用接着剤を塗布後すぐに乾燥した砂を管上から塗布し、均一に砂を接着させること。

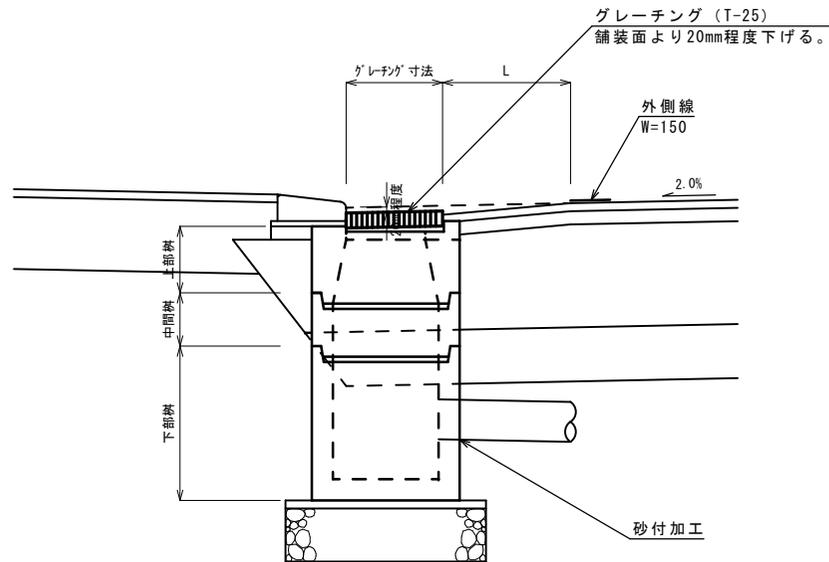
年度			
路線名			
工事名			
図面名	取付管標準図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計年月日			
岩見沢市建設部土木課			

平面図
S=1:20

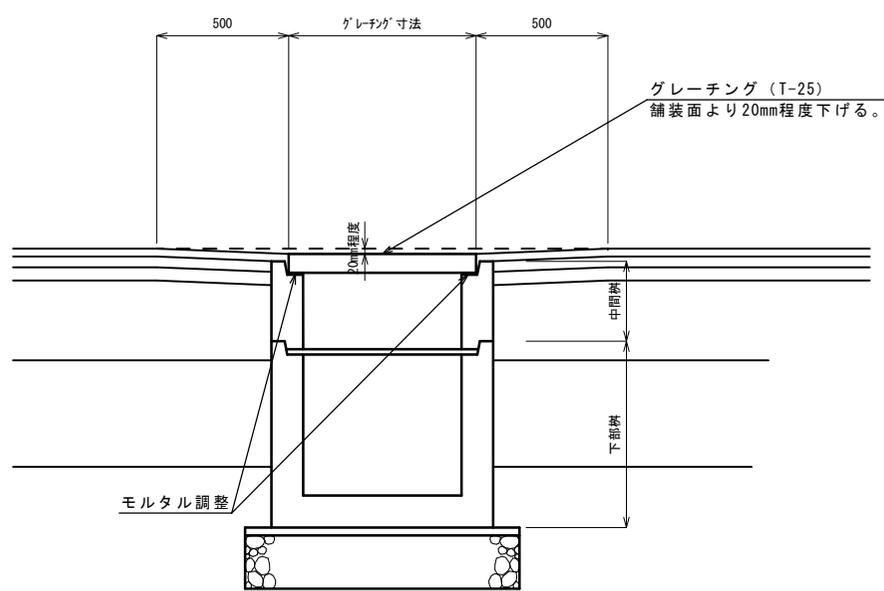


※柵周辺の舗装は外側線外側から摺付を行うこと。(外側線が波打ちしないようにする)
 図面表示のLは雨水樹寸法及び路肩により決定される。
 外側線がない場合は、L=250程度とする。
 玄関・車庫前等の雨水樹の設置については隣接する地権者に確認をとること。

A-A断面
S=1:20



B-B断面
S=1:20

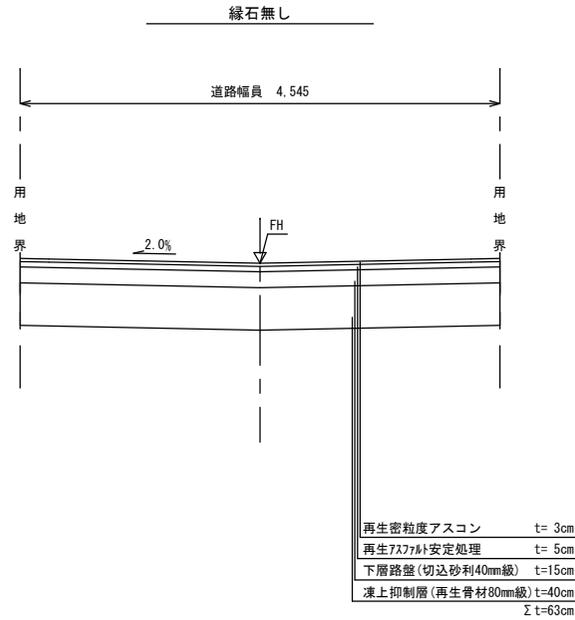


※縦断勾配がきつい場合は考慮すること

年度	
路線名	
工事名	
図面名	柵周辺の舗装摺付方法
縮尺	S=1:20 図面番号
設計年月日	
岩見沢市建設部土木課	

標準横断面図

S=1:50



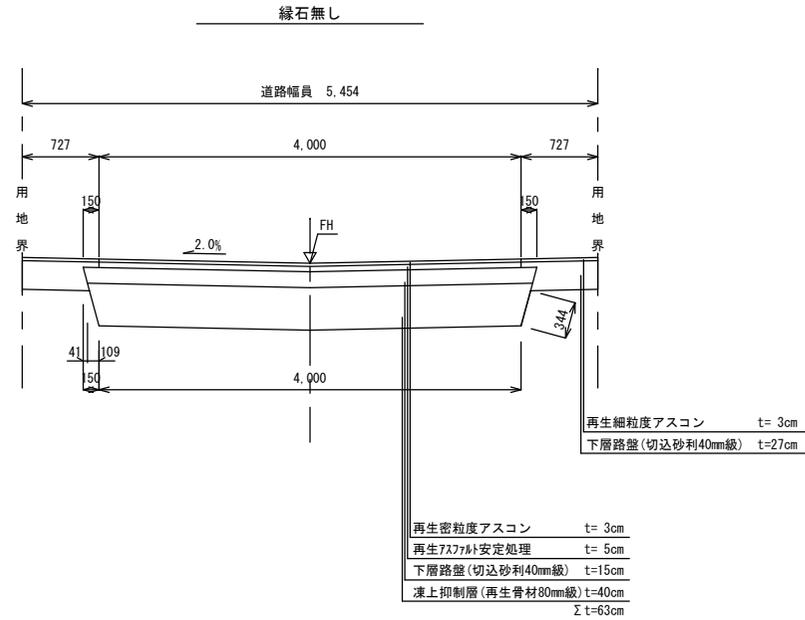
※特記事項

- 再生骨材が供給されない場合は、凍抑材を砂に変更し、併せて下層路盤をt=35cm、凍上抑制層をt=20cmに変更する。
- 路床が軟弱な場合、土木シート等敷設するなど、何らかの対策を講ずること。
- 雨水樹はⅡ型A樹を標準とする。
- 冬期施工（11月～3月）の場合は、表層の舗装材料を再生細粒度ギャップアスコンにとする。
- 地下水位が高い地域においては、路床排水の設置を検討すること。

年 度	
路 線 名	
工 事 名	
図 面 名	道路標準横断面図 (W=4.54m)
縮 尺	S=1:50
図面番号	
設計年月日	
岩見沢市建設部土木課	

標準横断面図

S=1:50



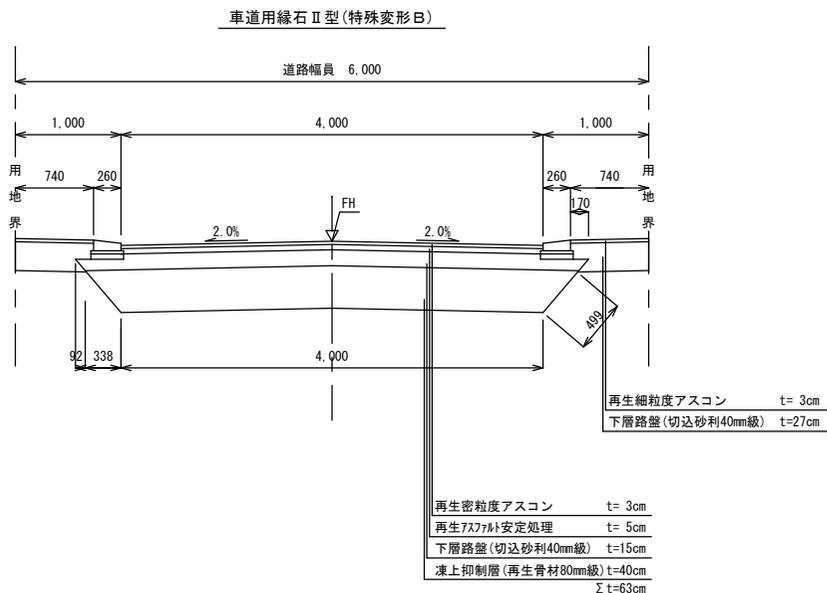
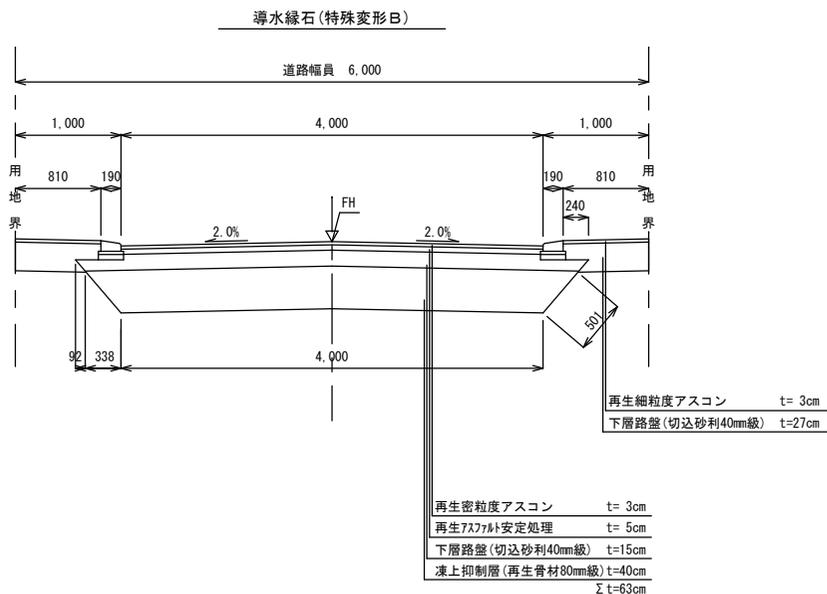
※特記事項

- 再生骨材が供給されない場合は、凍抑材を砂に変更し、併せて下層路盤をt=35cm、凍上抑制層をt=20cmに変更する。
- 路床が軟弱な場合、土木シート等敷設するなど、何らかの対策を講ずること。
- 雨水樹はⅡ型A樹を標準とする。
- 冬期施工(11月~3月)の場合は、表層の舗装材料を再生細粒度ギャップアスコンにとする。
- 地下水位が高い地域においては、路床排水の設置を検討すること。

年度	
路線名	
工事名	
図面名	道路標準横断面図 (W=5.45m)
縮尺	S=1:50
図面番号	
設計年月日	
岩見沢市建設部土木課	

標準横断図

S=1:50



※特記事項

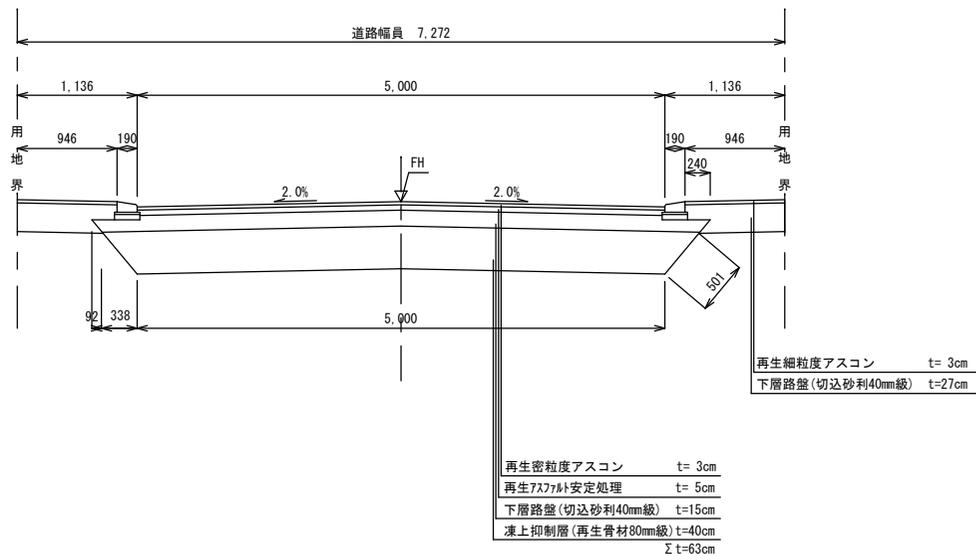
- 再生骨材が供給されない場合は、凍抑材を砂に変更し、併せて下層路盤をt=35cm、凍上抑制層をt=20cmに変更する。
- 路床が軟弱な場合、土木シート等敷設するなど、何らかの対策を講ずること。
- 雨水樹はII型A樹を標準とする。
- 冬期施工(11月~3月)の場合は、表層の舗装材料を再生細粒度ギャップアスコンにすること。
- 地下水位が高い地域においては、路床排水の設置を検討すること。

年度	
路線名	
工事名	
図面名	道路標準横断図 (W=6.0m)
縮尺	S=1:50 図面番号
設計年月日	
岩見沢市建設部土木課	

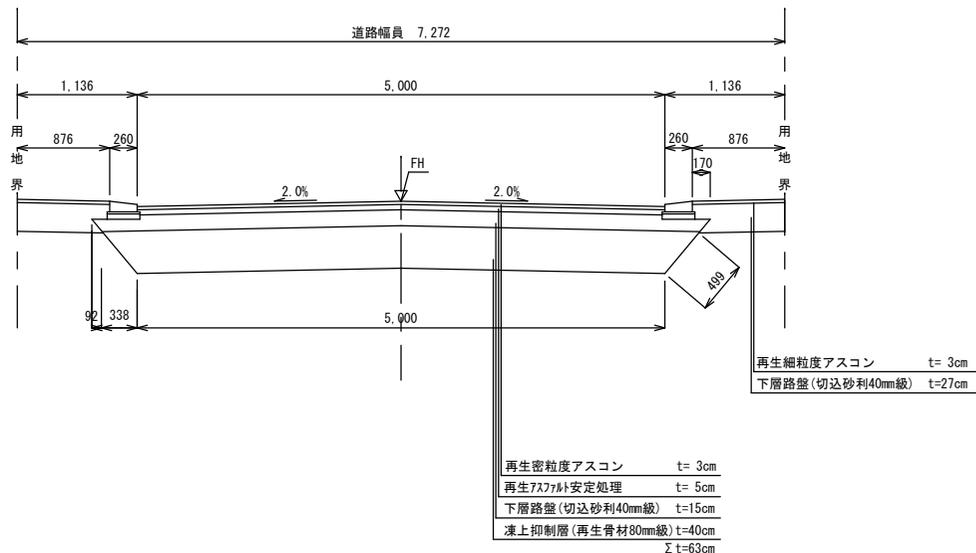
標準横断面図

S=1:50

導水縁石(特殊変形B)



車道用縁石Ⅱ型(特殊変形B)



※特記事項

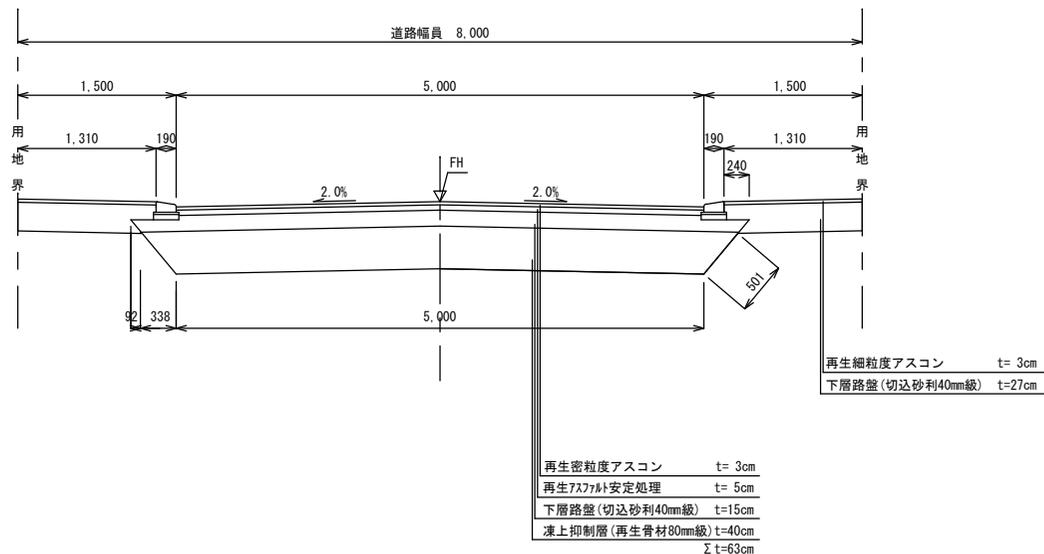
- 再生骨材が供給されない場合は、凍抑材を砂に変更し、併せて下層路盤をt=35cm、凍上抑制層をt=20cmに変更する。
- 路床が軟弱な場合、土シート等敷設するなど、何らかの対策を講ずること。
- 雨水樹はⅡ型A樹を標準とする。
- 冬期施工(11月～3月)の場合は、表層の舗装材料を再生細粒度ギャップアスコンにすること。
- 地下水位が高い地域においては、路床排水の設置を検討すること。

年度	
路線名	
工事名	
図面名	道路標準横断面図 (W=7.27m)
縮尺	S=1:50
図面番号	
設計年月日	
岩見沢市建設部土木課	

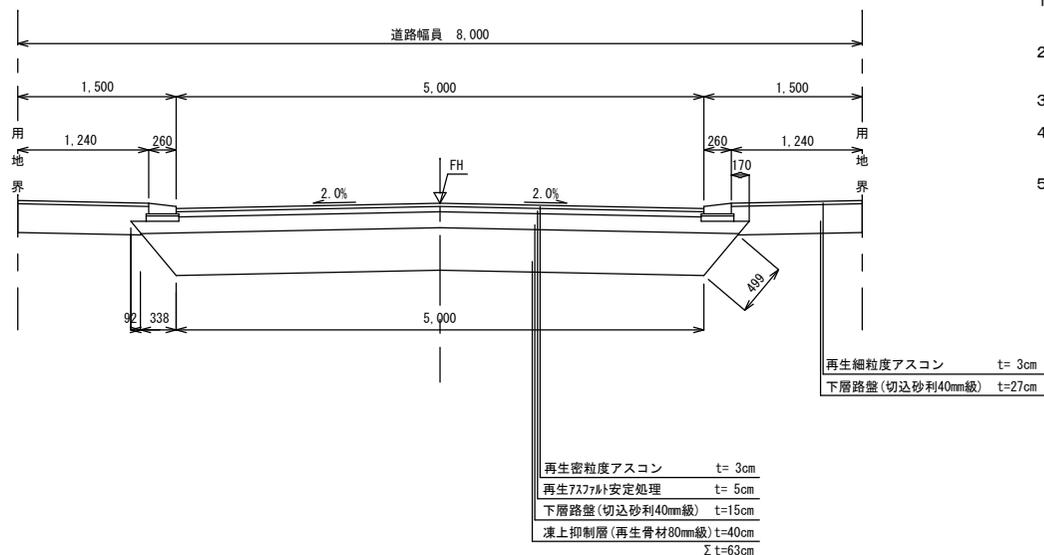
標準横断面図

S=1:50

導水縁石(特殊変形B)



車道用縁石Ⅱ型(特殊変形B)



※特記事項

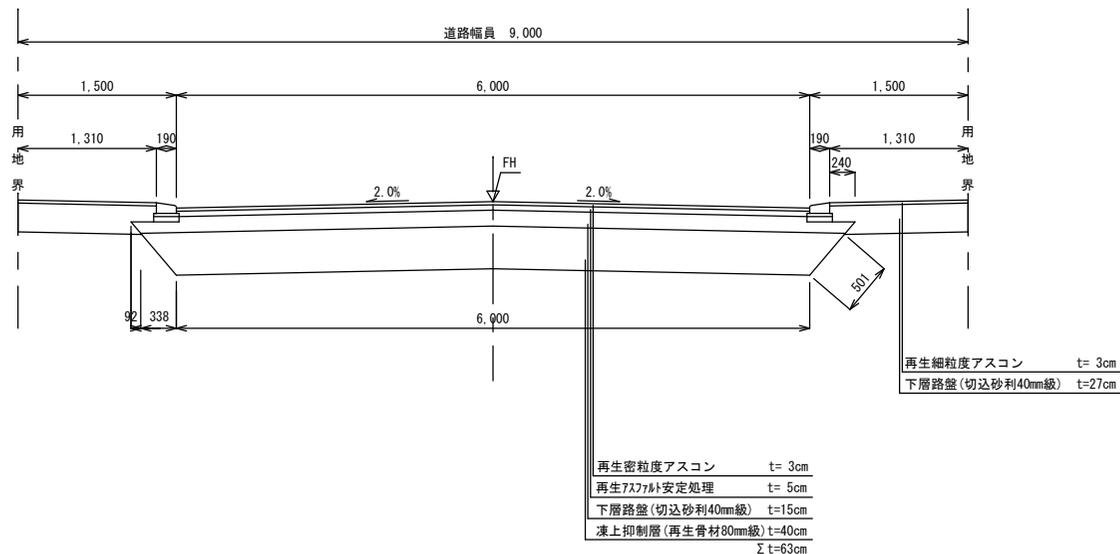
- 再生骨材が供給されない場合は、凍抑材を砂に変更し、併せて下層路盤をt=35cm、凍上抑制層をt=20cmに変更する。
- 路床が軟弱な場合、土布シート等敷設するなど、何らかの対策を講ずること。
- 雨水樹はⅡ型A樹を標準とする。
- 冬期施工(11月~3月)の場合は、表層の舗装材料を再生細粒度ギャップアスコンとする。
- 地下水位が高い地域においては、路床排水の設置を検討すること。

年度	
路線名	
工事名	
図面名	道路標準横断面図 (W=8.0m)
縮尺	S=1:50 図面番号
設計年月日	
岩見沢市建設部土木課	

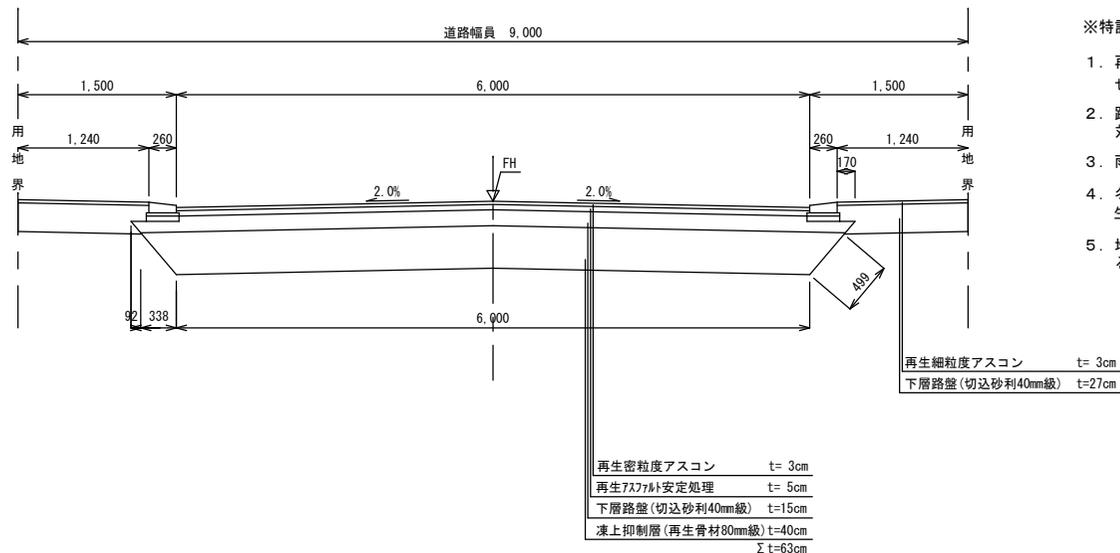
標準横断面図

S=1:50

導水縁石(特殊変形B)



車道用縁石Ⅱ型(特殊変形B)



※特記事項

- 再生骨材が供給されない場合は、凍抑材を砂に変更し、併せて下層路盤をt=35cm、凍上抑制層をt=20cmに変更する。
- 路床が軟弱な場合、土木シート等敷設するなど、何らかの対策を講ずること。
- 雨水樹はⅡ型A樹を標準とする。
- 冬期施工(11月~3月)の場合は、表層の舗装材料を再生細粒度ギャップアスコンにする。
- 地下水位が高い地域においては、路床排水の設置を検討すること。

年度	
路線名	
工事名	
図面名	道路標準横断面図 (W=9.0m)
縮尺	S=1:50 図面番号
設計年月日	
岩見沢市建設部土木課	